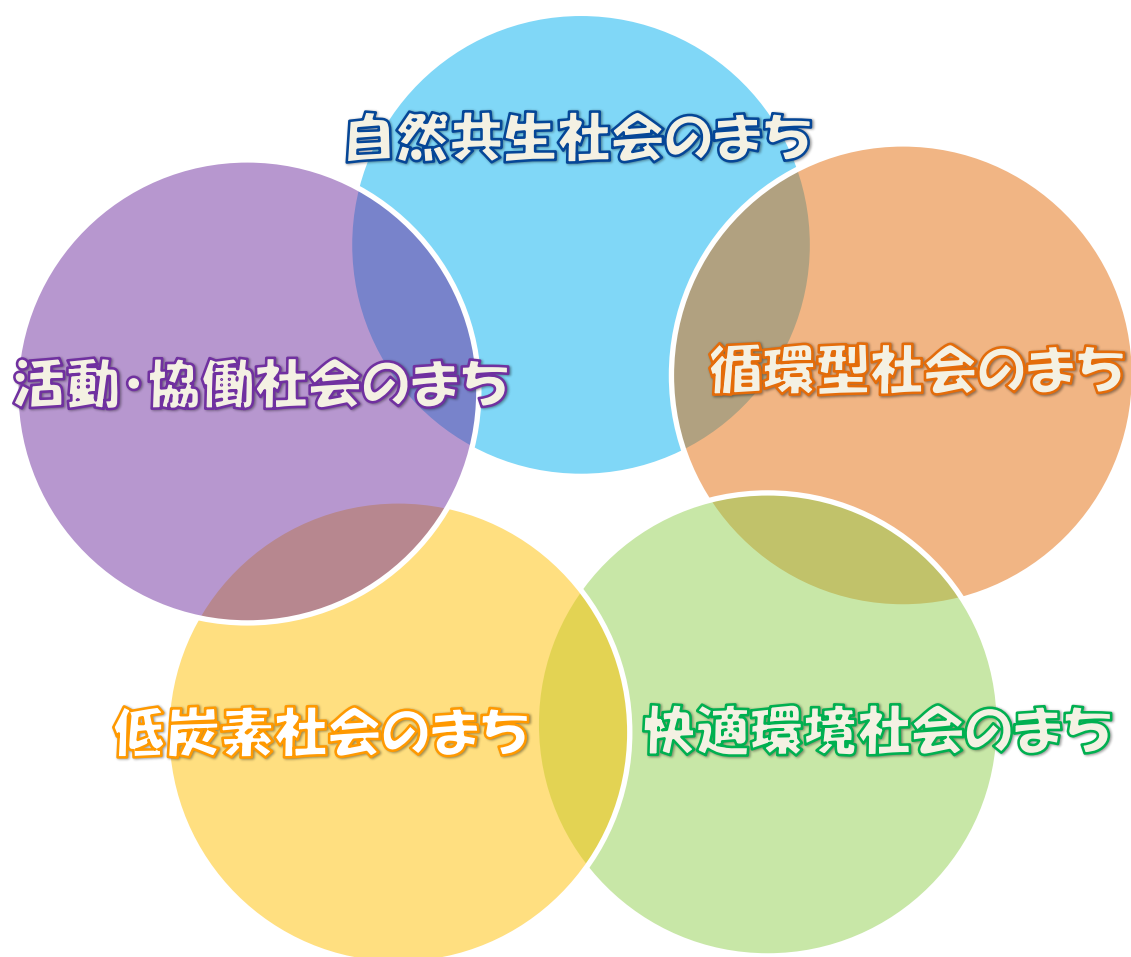


平成 30 年度

富良野市環境白書

～ふらのの魅力を支える環境と共生するまちをめざして～



計画を進めるにあたって

計画の取組を進めるためには、現在、環境がどのような状態にあるのかを知ることが大切です。

そのため、計画では、環境の状況を知るための「ものさし」となる環境指標や、各環境施策の数値目標を設定し、定期的にその達成状況や変化を把握することにより計画を効果的に進めます。

この「富良野市環境白書」では、数値目標に対する達成度合いや各年度の取り組み状況などをわかりやすく記載しました。

また、この環境指標・数値目標については、計画の進捗段階において必要に応じて見直しや追加をしていきます。

目 次

基本目標 1	自然共生社会のまち	
	①水環境の保全	1
	②持続可能な農地の保全と活用	3
	③森林の保全と育成	4
	④野生動物との共生と保護活動の推進	5
基本目標 2	循環型社会のまち	
	⑤ごみの減量化・リサイクル対策の継続的な推進	6
基本目標 3	快適環境社会のまち	
	⑥魅力ある森林・農村景観の保全と都市景観の形成	7
	⑦良好な大気環境の維持	8
	⑧騒音・振動及び悪臭の防止	9
基本目標 4	低炭素社会のまち	
	⑨地球温暖化対策等の推進と実践	10
	⑩資源・エネルギーの有効利用と実践	11
基本目標 5	活動・協働社会のまち	
	⑪市民、事業者、市の協働による自主的な活動の推進	12
	⑫幅広い世代への環境教育・環境学習の推進	13
	⑬環境情報の共有化	13

①水環境の保全

家庭からの生活排水や工場・事業所からの排水による河川や地下水の水質汚濁を防ぎ、また市内を流れる自然河川を保全・維持することで、本来の河川が備えている水の浄化機能を高め、市民が健康やかに暮らし、多くの生物がみられる水環境を目指します。さらに、市内河川は、水道水源等として利用される空知川水系の上流域に位置することを鑑みて、流域全体の保全を進めます。

水質汚濁の代表的な指標であるBODは、環境基準点で基準内

■ BOD※の環境基準適合状況

河川名	環境基準点	調査結果								環境基準 (mg/ℓ)
		前回				今回				
		測定日	天候	水温 (℃)	BOD (mg/ℓ)	測定日	天候	水温 (℃)	BOD (mg/ℓ)	
勇振川	勇振川橋	H27.9.9	曇り	14.8	1.0	H29.9.6	晴れ	18.5	1.1	—
西達布川	古潭橋			12.8	0.9			17.7	0.9	1.0
	おもと橋			11.6	0.9			14.3	0.6	1.0
無頭川	学田橋			17.0	1.1			21.8	1.5	—
ベベルイ川	中央橋			13.6	0.9			14.5	0.7	—
富良野川	シャトーふらの橋			14.7	0.9			16.0	1.1	—
北2線川	水車川橋			16.2	1.1			19.8	1.6	—
基線川	市道北の峰5線との交差			14.8	0.9			18.6	2.6	—
北1号川	新光橋			13.7	1.2			14.4	1.1	—
空知川	富良野大橋			H26.10.20	曇り			9.4	2.6	H28.9.26
	布部大橋	9.4	2.5			15.9	0.6	2.0		
	平和橋	10.0	2.6			15.6	0.7	2.0		
	山部橋	9.5	2.4			16.6	0.6	2.0		
布部川	布部川大橋	9.5	2.3			13.1	0.6	—		
白鳥川	白鳥橋	9.0	2.3			11.8	0.5	—		
布礼別川	中島6線橋	10.0	2.4			15.7	0.9	—		
八線川	八線橋	10.5	2.0			15.8	0.6	—		

(資料) 主要河川水質調査より

※空知川、西達布川のみ環境基準値が設定されています。

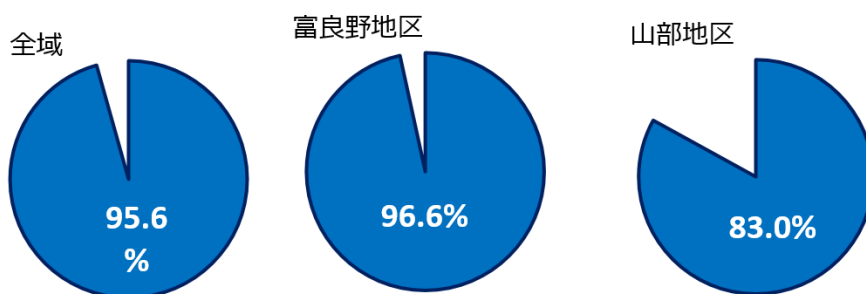
※BOD(生物化学的酸素要求量)とは、微生物が水中の有機物を生物学的に酸化・分解するために必要な酸素量のことです。数値が高くなるほど汚濁していることを示します。



①水環境の保全

家庭からの生活排水や工場・事業所からの排水による河川や地下水の水質汚濁を防ぎ、また市内を流れる自然河川を保全・維持することで、本来の河川が備えている水の浄化機能を高め、市民が健康やかに暮らし、多くの生物がみられる水環境を目指します。さらに、市内河川は、水道水源等として利用される空知川水系の上流域に位置することを鑑みて、流域全体の保全を進めます。

富良野地区と山部地区における 水洗化率※は 95.6% (+0.1%)



(資料) 上下水道課より

	平成 28 年度末		平成 29 年度末	
	処理区域人口	水洗化人口	処理区域人口	水洗化人口
富良野地区	16,126 人	15,539 人	15,907 人	15,363 人
山部地区	1,227 人	1,026 人	1,183 人	982 人
全域	17,353 人	16,565 人	17,090 人	16,345 人

※下水道が配管されている処理区域において、下水道に接続している割合

<参考> 平成 29 年度末

	下水道処理	浄化槽処理	その他処理	合計
人口	16,345	2,664	2,901	21,910
世帯	8,289	1,264	1,276	10,829

◆平成 29 年度の具体的な取り組み

- ・ 主要河川水質調査の実施
- ・ 広報紙や市 HP による PR
- ・ 水洗化に対する、相談・助言
- ・ 空知川水系 2 級河川（6 河川）の草刈りの実施（富良野市道路河川愛護会）



② 持続可能な農地の保全と活用

健全で持続可能な農業を発展させることで、生物の生存基盤としての土壌環境を保全するとともに、保水機能や景観形成など様々な機能の維持・向上を目指します。さらに、本市の基幹産業の一つである農業について、地球温暖化対策や資源・エネルギー対策等を進めることで、環境に配慮した付加価値の高い農業生産活動を推進し、農業の振興を図ります。

市内の JGAP 認証を受けている農場件数

6農場(目標値:H30 年度 10 農場)

	H26	H27	H28	H29
JGAP 認証 農場件数	5	5	5	6

(資料) 農林課より

平成 30 年度までに
10 農場を目標にしています。

GAP (Good Agricultural Practice) は「農業生産工程管理」「良い農業のやり方」等と訳されており、農場での数多くの作業や生産環境のうち安全を確保するためのポイントをまとめたもので、生産者はポイント(基準表)に基づいて作業を行います。従来の「結果管理に基づく品質保証」に対して「生産工程管理に基づく品質保証」であり、安全を確保する様々な対策を講じることにより危険性を最小限にする予防型の取組みです。

GAP に取り組むメリットとして以下の効果があげられます。

- ① 的確な安全管理～危害要因の排除、農産物の安全性の確保(産地の信頼)
- ② 適正な栽培管理～農産物の品質向上
- ③ 農作業の効率化～農業経営の改善
- ④ リスク管理～問題発生時の原因の特定と事後の証明が可能

以上のことから、富良野市では特に第三者認証による GAP の普及を進めています。



◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・環境保全型農業直接支援対策事業※で11名の農業者の取組みの支援
- ・農地周辺の草刈りや緑化など環境保全活動に対して支援(6地区)
- ・ふらの春のアスパラ祭り、旬のアスパラ月間(2,000名参加)
- ・ふらの未来農業EXPO2017(830名参加)※農林課事業
- ・メイドインフラノパワーアップセミナー(50名参加)

※環境保全型農業直接支援対策事業とは、化学肥料、化学合成農薬の5割低減の取組とセットで、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む場合に支援を行います。

MADE IN FURANO とは ～本当に美味しい地産地消を目指して～

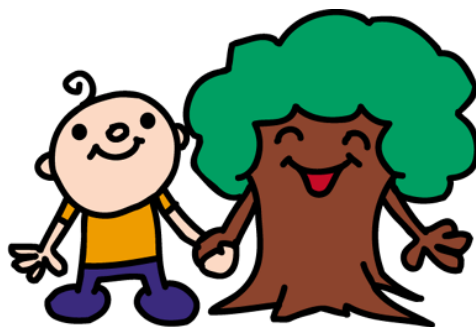
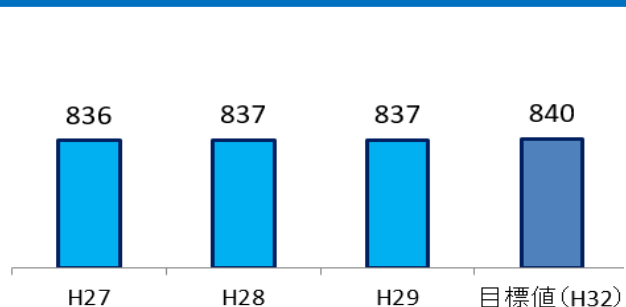
豊かな農産物とこだわりの飲食店、観光地ならではの加工品が揃うここ富良野で、もっとたくさんの、美味しい『MADE IN FURANO(富良野産)』を味わってほしい…。食に関わるすべての人の思いをひとつにすることを目的に、平成 28 年度よりスタートする取組みが『MADE IN FURANO』です。食の原点である畑から、お客様に提供するサービスの場までをひとつなぎとし、自慢の味にストーリーを添えて、味わうすべてのお客様へ本当に美味しい富良野を届けます。様々なイベントや各店舗の取組みを行っていきますので、『MADE IN FURANO』にご注目ください!



③ 森林の保全と育成

本市は、市総面積の約70%が森林を占め、森林面積の所有別内訳は、国有林34%、民有林のうち東京大学演習林53%、その他民有林13%で構成されています。森林は、水源かん養、水質の浄化、自然災害の防止、土壌保全、野生生物の生息地、木材等の物質生産などの多様な機能を有しており、特に本市の基幹産業である農業や観光業と深い関わりのある森林の保水機能や景観形成機能を保全するとともに、地球温暖化の緩和機能（二酸化炭素の吸収・固定機能）を高めるための育成を進めます。

市有林面積 837ha



◆平成29年度の具体的な取組み

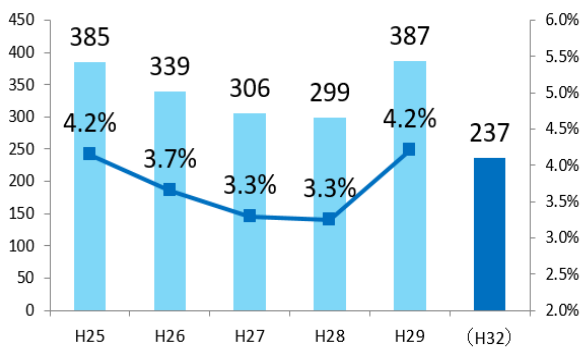
- ・富良野市森林整備計画に基づき、民有林の造林43ha、除間伐11ha、下刈68haに対し助成と合わせて、市有林の間伐48ha・造林1haを実施
- ・富良野市市民植樹祭を開催（市民23名参加）
- ・担い手対策として21名に対して助成
- ・北海道と連携し、アスベスト鉱山跡地を確認
- ・富良野岳原始ヶ原登山コース整備修繕の実施
- ・湿地帯における植生復元作業の実施
- ・市民登山会の実施（40名）



④野生動物との共生と保護活動の推進

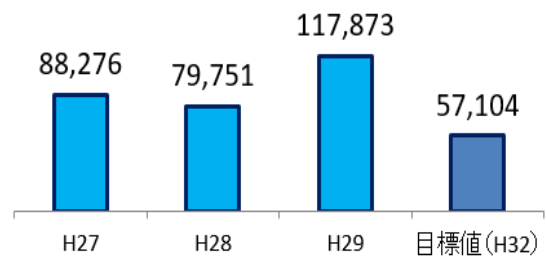
本市は、広大な森林、河川など野生生物が生息・生育する自然環境に恵まれており、貴重な動植物の保護・保全活動を推進するとともに、農林業に対するエゾシカ、ヒグマ等の鳥獣被害や、外来生物による生態系への影響に対処し、人と野生生物が共生できるまちを目指します。

野生鳥獣による被害面積 387ha (作付面積の4.2%)



※被害面積と作付面積に対する被害面積の割合

野生鳥獣による被害額 117,873 千円

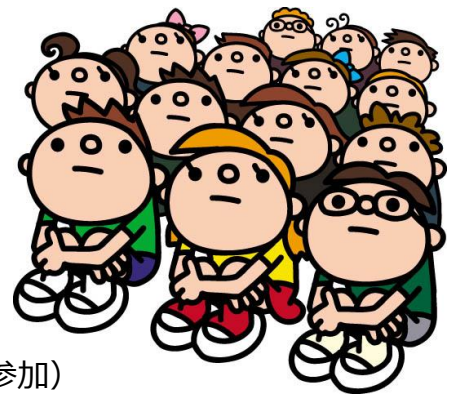


目標値(H32) 57,104

市民・事業者からの情報収集並びに提供
ヒグマ情報 64件 看板設置 26カ所

◆平成 29 年度の具体的な取組み

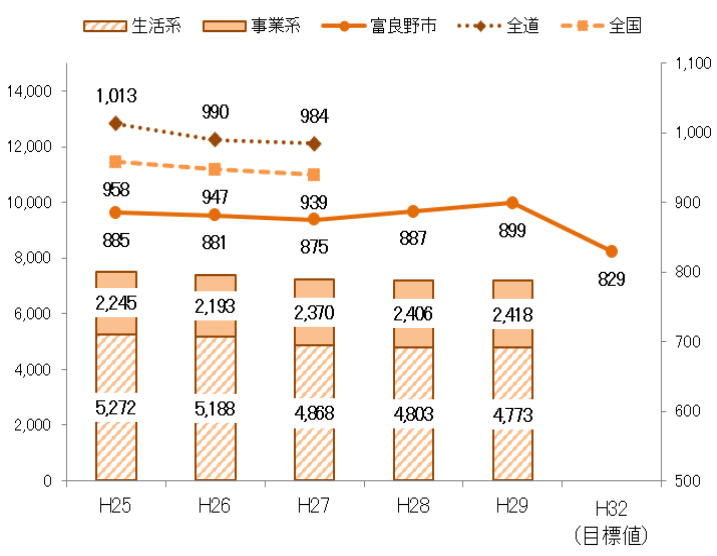
- ・ヘイケボタル生息調査 (太陽の里 2 回)
- ・特定外来生物オオハンゴンソウの防除活動 (2 回 40 名参加)
- ・自然観察会の開催 (富良野の自然に親しむ集い全 5 回 112 名参加)
- ・北海道フラワーソン (2 回 15 名参加)
- ・自然講演会の開催 (26 名参加)
- ・山川草木を育てる集い富良野本部植樹祭への参加
- ・ナキウサギ観察会の実施 (5 名参加)



⑤ごみの減量化・ リサイクル対策の継続的な推進

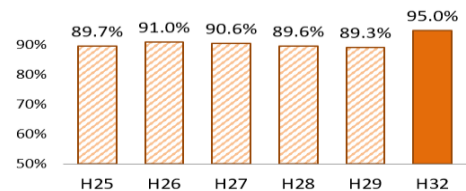
これからの少子高齢化や人口減少が進む社会の変遷に対応しながら、現在の廃棄物処理・資源循環システム（材質に応じた適切な資源化処理）を維持・継承し、さらなるごみの減量や資源の節約を実践するとともに、不法投棄やポイ捨て対策を進め、質の高い循環型社会のまちを目指します。

1人1日あたりのごみ排出量 **899g/人・日**



◆平成 28 年度より前年度から 1%の削減を目標にしています。
※算出方法：(年間のごみ収集量÷365日)÷人口

ごみの資源化率は目標 **95%**

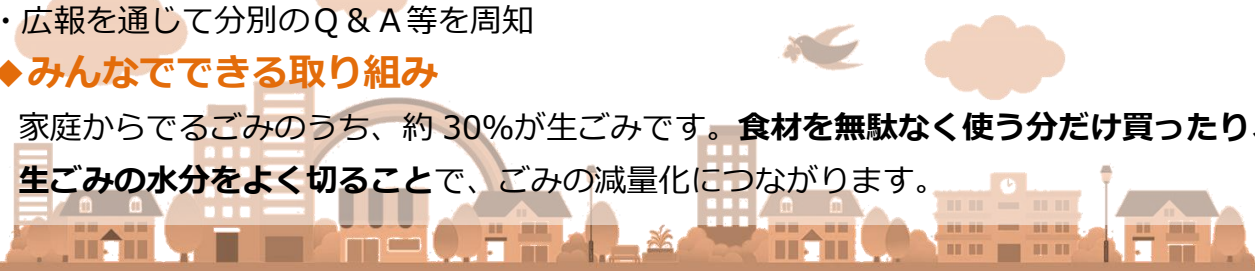


◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・リサイクルフェア（8月27日開催：1,000名来場）
- ・ふらの環境展（9月14～16日開催：200名来場）
- ・ふらのフリーマーケット（7月23日開催：200名来場、2月17日開催：300名来場）
- ・広域（近隣5市町村）で連携し、資源循環システムの維持に努め、高い資源化率を維持
- ・衛生用品の固形燃料化実証実験
- ・廃棄物の処理及びリサイクルの概要の作成
- ・広報を通じて分別のQ & A等を周知

◆みんなでできる取組み

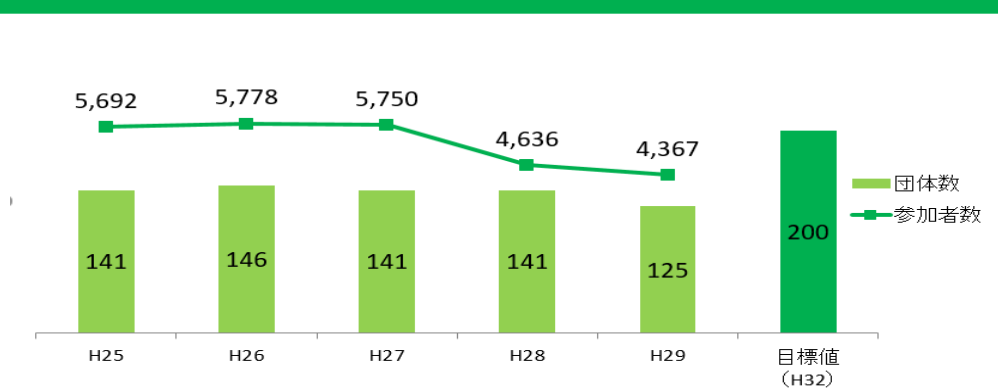
家庭からでるごみのうち、約30%が生ごみです。食材を無駄なく使う分だけ買ったり、生ごみの水分をよく切ることで、ごみの減量化につながります。



⑥魅力ある森林・農村景観の保全と 都市景観の形成

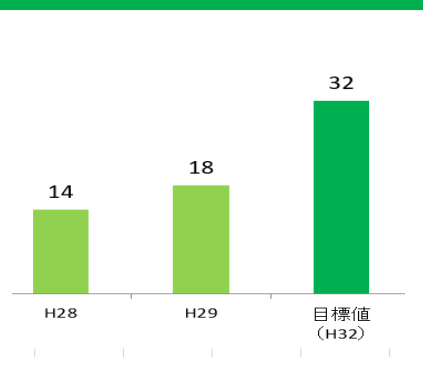
雄大で美しい大雪山系十勝岳連峰と夕張山地の山並みや、農業の営みの中で維持されてきた農村景観を保全するとともに、その景観と調和した美しい街並みと緑豊かな生活空間を有する都市景観を形成し、環境・観光資源としての魅力的な景観づくりを目指します。

春秋の環境美化運動の参加団体数 **125団体** 4,367名



※春・秋の環境美化運動以外にも各種団体によるごみ拾い活動が実施されています。

公園修繕数 **18公園**



◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・富良野らしさの自然環境を守る条例に基づき事前協議を実施
(届出件数：開発行為 4 件 指定事業場 14 件 指定建築物 4 件 計 22 件)
- ・長寿命化事業により遊具施設を整備 (4 公園)
- ・春・秋に環境美化運動を実施 (125 団体、4,367 名参加)
- ・各種団体によるごみ拾い活動に対してごみ袋等の支援 ・不法放棄パトロールの実施

⑦ 良好な大気環境の維持

本市は、清浄な空気を生み出す豊かな自然に恵まれ、且つ大気汚染の発生源（工場・事業場、自動車等）も少ないことから、現状の大気環境に関する施策を継続的に推進し、良好な大気環境を維持します。

大気環境測定によるアスベスト（石綿）濃度は

全ての測定地点で問題なし

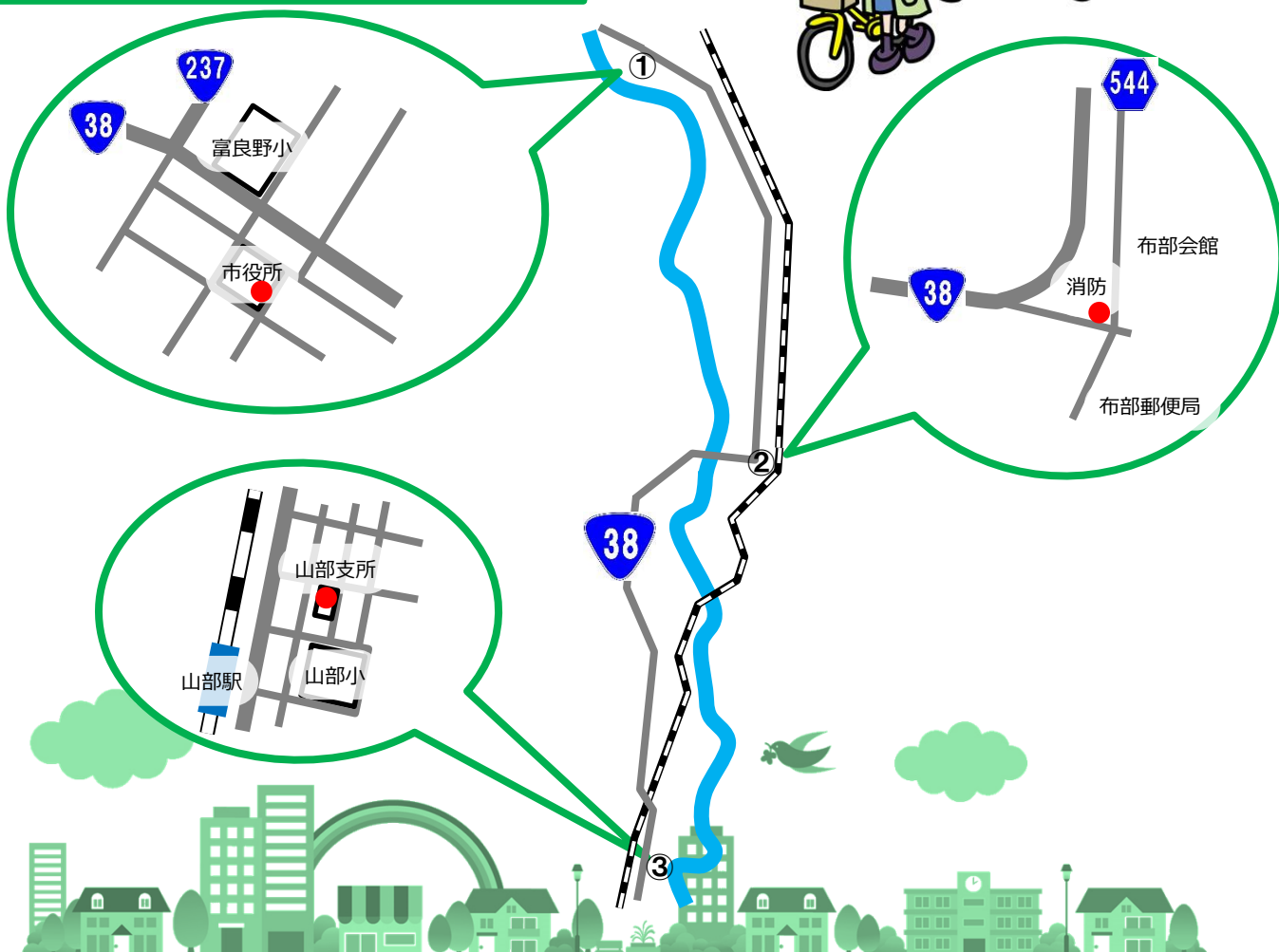
【平成 29 年度調査】

測定場所	石綿繊維数濃度幾何平均濃度 (本/ℓ)
①富良野市役所	0.1 未満
②布部消防付近	0.1 未満
③山部支所付近	0.1 未満

※環境基準値はありませんが、大気汚染防止法における、敷地境界線の濃度は 10 本/ℓ に定められています。
※この方法による測定 of 定量下限は 0.1 本/ℓ です。

◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・車に依存しない生活を実践するため、安全で安心して利用できるように、自転車歩行者道路を整備（東 2 条 1 道路、西 8 条 2 道路、春日錦町通、東 6 条道路）
- ・北海道と連携し、アスベスト鉱山跡地確認
- ・大気環境測定調査を実施



⑧騒音・振動及び悪臭の防止

工場や事業場、建設作業等による騒音や振動、悪臭の対策を継続的に推進するとともに、近隣騒音等の日常生活の営みから発生する問題の低減を図ることで、静かで快適な暮らしやすいまちを目指します。

自動車騒音の実測値は全ての観測地点で 環境基準値以内

調査年	路線名	評価区間の始点	評価区間の終点	調査点	実測値 (dB)	環境基準値 (dB)
H25	一般国道 38号線	学田三区 学田こ線橋付近	新富町エーコープ フォーレスト店 富良野市場付近交差点	北の峰町 29番 Tuba's 付近	67.0	昼間時間帯 70.0
					60.0	夜間時間帯 65.0
	道道 北の峰線 800号線	北の峰 19番 北の峰ターミナル 交差点付近	北の峰 35番 コスモ石油北の峰 セルフ交差点付近	北の峰町 32番 北の峰児童館 交差点付近	61.0	昼間時間帯 70.0
					54.0	夜間時間帯 65.0
H26	一般国道 38号線	緑町 3番(公営住宅) 9番付近	字西扇山 旭川開発建設部 富良野河川事業所付近	緑町 10番 アグリランド付近	68.0	昼間時間帯 70.0
					65.0	夜間時間帯 65.0
	道道 山部北の峰線 985号線	末広町 7番 ふらの五条大橋入口	末広町 8番 フラノ・マルシェ付近 交差点	末広町 9番 ワダテクノ付近	64.0	昼間時間帯 70.0
					54.0	夜間時間帯 65.0
H27	道道 奈江富良野線 759号線	北斗町 13番 シャトーふらの橋付近	桂木町 3番 富良野西中学校 交差点付近	桂木町 4番 交差点付近	61.0	昼間時間帯 70.0
					51.0	夜間時間帯 65.0
	道道 東山富良野 停車場線 253号線	東町 2番 富良野地区農業 共済組合交差点付近	日の出町 4番 富良野駅前交差点付近	栄町 4番 溝口洋服店付近	62.0	昼間時間帯 70.0
					53.0	夜間時間帯 65.0
H28	市道 相生通線	日の出町 4番 富良野駅前交差点付近	桂木町 3番 富良野西中学校 交差点付近	朝日町 9番 藤田サイクル付近	62.0	昼間時間帯 70.0
					51.0	夜間時間帯 65.0
H29	一般国道 38号線	新富町エーコープ フォーレスト店 富良野市場付近交差点	緑町 3番(公営住宅) 9番付近	末広町 8番 15号 大塩店付近	66.0	昼間時間帯 70.0
					58.0	夜間時間帯 65.0
	一般国道 237号線	新富町エーコープ フォーレスト店 富良野市場付近交差点	花園町 花園橋前	本町 12番 28号 北炭販売富良野 営業所付近	65.0	昼間時間帯 70.0
					57.0	夜間時間帯 65.0

自動車騒音調査は平成 24 年度から市で実施しています。8 路線を 5 年かけて調査します。(市道相生通は調査外)

◆平成 29 年度の具体的な取組み

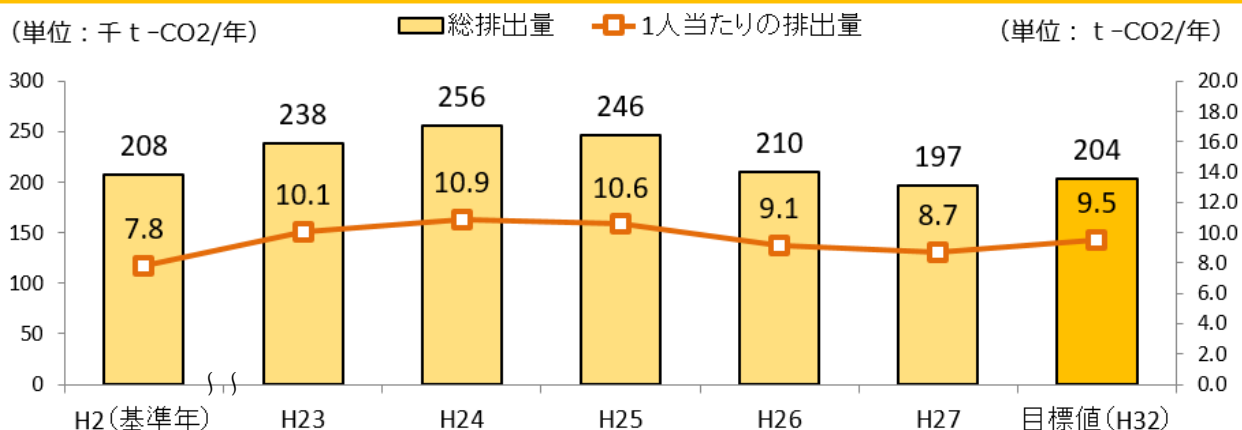
- ・自動車騒音軽減を目的に道路を整備（東 2 条 1 道路、西 8 条 2 道路、春日錦町通、東 6 条道路）
- ・自動車騒音調査を実施



⑨地球温暖化対策等の推進と実践

地球温暖化とその主要要因である温室効果ガス排出量の増大は、大気汚染や酸性雨、オゾン層破壊にも係わる現在の国際社会の主要な環境問題です。本市では地域の自然的・社会的特性を活かし、化石燃料の代替エネルギーの導入、木質バイオマスの利用、吸収源対策など多角的にこの問題に取り組んでいきます。

富良野市のCO₂総排出量は 前年度から約6%減少



(資料) 環境省 部門別 CO₂ 排出量の現況推計より

※より詳細な指標として、環境省で部門ごとに推計した値を引用しています。

※毎年修正等が行われているため昨年の環境白書と数値が変更になる場合があります。

◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・ペレットストーブ購入補助事業 (0件 0円) 延べ 34 基 (平成 21~29 年度)
- ・太陽光発電システム補助事業 (0件 0円) 延べ 9 件 (平成 25~29 年度)
- ・うちエコ診断実施 0 件

うちエコ診断とは

各家庭のライフスタイルや地域特性に応じたきめ細かい診断・アドバイスを実施することにより効果的に二酸化炭素排出量の削減・抑制を推進していくための制度です。

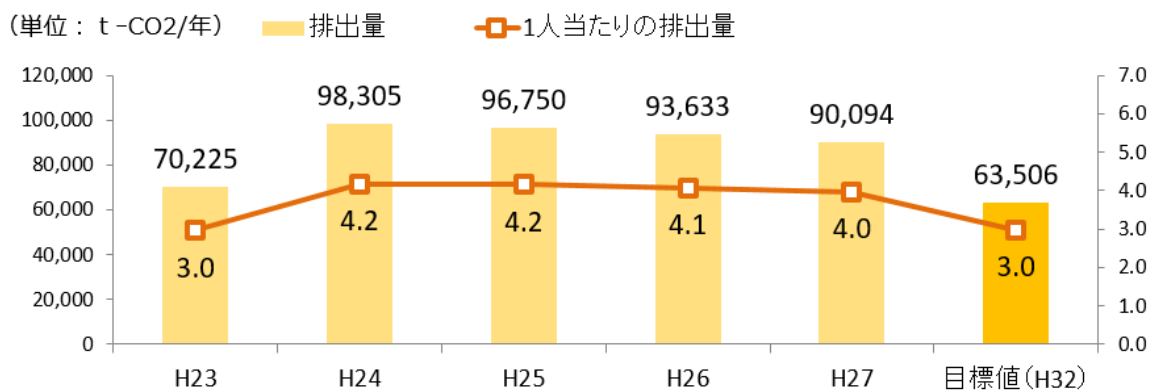
環境省認定の「うちエコ診断士」がご家庭のエネルギー対策・地球温暖化対策を診断し、ご家庭に合わせたオーダーメイドの対策を提案します。



⑩資源・エネルギーの有効利用と実践

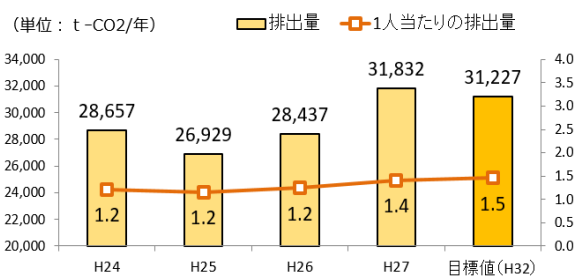
将来的に枯渇の危機が懸念される化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）への依存や地球温暖化への影響を低減した低炭素社会を実現していくため、有限な資源・エネルギーの有効利用を進めるとともに、再生可能なエネルギー利用への転換を目指します。

富良野市の電力由来のCO₂排出量は 前年度から約4%減



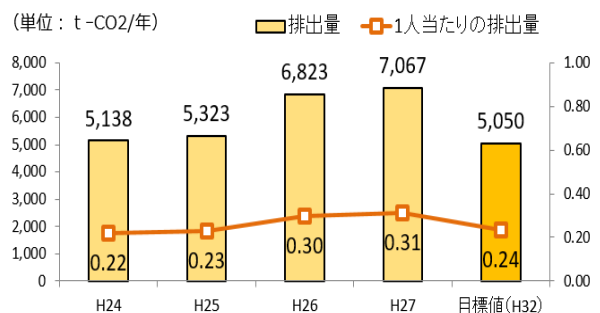
(資料) 北海道電力(株)富良野営業所より提供 ※北電(株)富良野営業所から使用電力量の提供を受けていましたが、H28年から小売全面自由化の開始に伴い、開示出来ない取扱となりました。

富良野市の灯油由来のCO₂排出量は 前年度から約12%増



※地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）に基づき、部門別に按分して再計算しています。基礎数値については毎年見直しがされています。

富良野市の重油由来のCO₂排出量は 前年度から約4%増



※地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）に基づき、部門別に按分して再計算しています。基礎数値については毎年見直しがされています。

◆平成29年度の具体的な取組み

- ・小水力発電（白鳥川）の環境整備
- ・衛生用品の固形燃料化の実証実験



⑪ 市民、事業者、市の協働による 自主的な活動の推進

良好な環境づくりを推進するにあたっては、市、事業者、市民等が公平な役割分担のもとで、環境に配慮した行動を実践していく必要があります。また、富良野市は豊かな自然環境資源（且つ観光資源）を有するため、これら活動拠点を活かして、観光客や関連団体と協働した取組が必要です。そのため、市、事業者、市民等が参加し、自主的な活動を実践するまちを目指します。

◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・農業体験受入 ・ふらの自然塾体験受入 遊々の森「もぐもぐハイク」事業 10 名
- ・リサイクルフェア 1,000 名
- ・ふらの市民環境会議の取組み
 講演会 29 名 市民施設見学会 30 名 ふらの環境展 200 名
 ふらのフリーマーケット 300 名来場

◆富良野市における環境に関する条例など

- ・富良野市環境基本条例 ・富良野市まちをきれいにする条例 ・富良野市緑化推進条例
- ・富良野らしさの自然環境を守る条例 ・富良野市自転車の放置防止に関する条例

【ふらの市民環境会議の主な取り組み】

夏：市民施設見学会

秋：ふらの環境展

冬：ふらのフリーマーケット



※写真は平成 29 年度



⑫幅広い世代への環境教育・ 環境学習の推進

多様化する環境問題への理解の深化を図るため、家庭、学校、地域、企業や事業所などにおいて、生涯にわたる質の高い環境教育・環境学習を行い、環境施策を実践できる豊かな感性を持った人づくりを目指します。

森林学習プログラム参加校 **8校**
(目標値 15校)



◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・富良野自然塾での環境学習 4184名
- ・小水力発電施設（白鳥川）での環境学習
- ・リターナブル食器の活用
(ワインぶどう祭り、リサイクルフェア)
- ・市内8校の小学校5～6年生がふらの自然塾のフィールドを活用して体験学習を実施（教員・児童165名）
- ・森林学習プログラム推進事業

※学習プログラムの構築及び森林ガイドの発掘と育成実践校8校、

※小中学校の総合的な学習の時間の支援 4校8回

- ・保育所にて「食の探検隊」「自然観察」、「農作物の育成から収穫、調理、会食」、幼稚園において「農場体験」「自然散策」などを実施

⑬環境情報の共有化

市民、事業者、市等が連携して環境施策を推進していくためには、環境問題に対する関心の喚起、理解の深化を図ることが重要です。現代社会は情報技術の発展に伴い、多種多様な環境情報が提供されていますが、市民が生活し、事業者が事業活動を行う身近な地域の環境情報を共有化することで、環境意識の高いまちを目指します。

◆平成 29 年度の具体的な取組み

- ・廃棄物の処理及びリサイクルの概要の作成
- ・環境白書の作成
- ・環境審議会の開催
- ・毎月広報においてリサイクル掲示板等の掲載
- ・環境展などのイベント情報を広報やホームページで周知

